



りんご特報 No.1

令和8年3月3日

J A中野市園芸課

J A中野市りんご・もも部会

カイガラムシ対策 最重点防除

カイガラムシ類の被害が年々増加しています。今回の薬剤散布が最も効果的ですので、温暖・無風の日を選び、幹や枝に十分にかかるよう散布を徹底しましょう。

また、気温の上昇に伴い生育も平年よりもかなり早まると予想されます。生育状況をよく観察し、第1回防除に向けて、剪定作業・SS 走行路の確保・SS の試運転等を進めて下さい。

(調査地区：平岡) 発芽：頂芽の先端が破れ、葉先の緑色の現れた芽を2~3認めた日。

ふじ	平年	R7	R6	R5	R4
発芽日	3/31	3/28	4/2	3/23	4/5



【休眠期（発芽前）の散布】

※散布は以下の2体系のどちらかを選択してください。

散布時期	発芽前（3月中下旬～）	散布日 ____月 ____日（ ）
		散布量 _____ℓ
散布薬剤	①石灰硫黄合剤体系（発芽前）	
	水 88ℓ 当たり スプレーオイル 2ℓ (発芽前、-) 石灰硫黄合剤 10ℓ (休眠期、-)	
※①か②のどちらかを選択してください	②トップジン体系（発芽前～発芽後7日以内）	
	水 98ℓ 当たり スプレーオイル 2ℓ (発芽前、-) トップジンM水和剤 100g (前日、6回)	
対象病害虫	腐らん病・ハダニ類・カイガラムシ類	
散布量	10a 当たり：300ℓ	
注意事項	【カイガラムシ類対策（トップジン体系のみ）】 アプロードフロアブルの1,000倍（30日前、2回）を加用する。	

次面もご覧ください

次回発行予定

3月17日

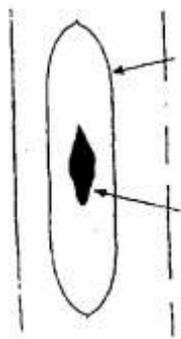
春の重点管理作業（腐らん病対策・粗皮削り・凍害対策）

1、腐らん病対策

6月に入ると病斑進展が最大となるとともに孢子飛散が始まり、せん定等の傷口からの感染が増大します。つきましては見つけ次第、切除・削り取り等を行い物理的防除に努めてください。

- ①各自園地点検を実施し早期発見に努める。（幹・枝部だけでなく、果台部にも見受けられる）
- ②病患部を見つけ次第切除または削り処理等を行う。
- ③削り取った病患部や、り病枝は焼却する。削り取った後、傷口に塗布剤（トップジンMペースト）を塗る。 *腐らんシートを巻く。

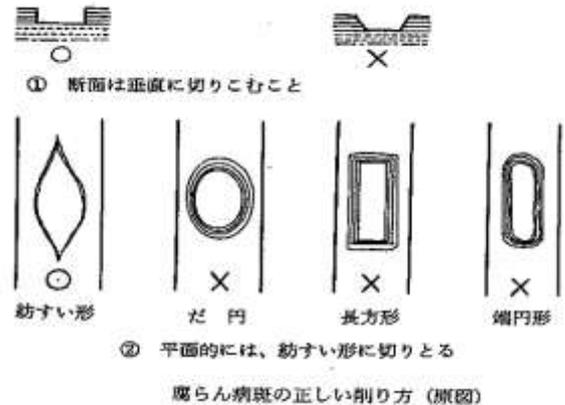
削り取り方法



【削り取り部】

木質部の変色している部分は周辺
の健全部を含みすべて削り取る。

【病斑部】



～ 具体的な方法 ～ *必ずお読みください。

- ① 幹や枝の伸びる方向に口がつかまるように紡すい形に切り取る。
- ② 切り口部は木質部が垂直になるようにする。
- ③ 表面の腐敗部だけでなく形成層の変色及びその周辺の健全部も削り取る。
- ④ 削り取った後は保護のためにトップジンMペーストなど塗布する。
- ⑤ 泥巻きをする場合は、病斑部だけでなく上下に長く巻き、乾かないようにビニール等で密封する。

2、粗皮削り（ハダニ類・カイガラムシ類・輪紋病対策）

リンゴハダニ、カイガラムシ類は粗皮下等に越冬しています。休眠期防除前に粗皮削りを行い、薬剤が直接かかるようにしてください。また、カイガラムシ類の寄生が多い園では、散布前に金ブラシ等で削り落す作業を行ってください。輪紋病(いぼ皮病)の罹病樹(枝)も多々散見されます。「いぼ皮」を見つければ、必ず粗皮削りを行い、輪紋病の発生源撲滅に努めてください。

3、凍害対策

- ①稲わら等の資材を樹幹に巻きつけている場合は、除去を遅らせる。*4月下旬頃まで薬剤散布が樹幹にかかりにくい状況になるため、わい化樹や5年生未満の若木のみ除去を遅らせる。
- ②排水性の悪い園地では、暗きよや・明きよ等によって排水対策に努める。また、新たに苗木を定植する場合は浅植えに努める。
- ③風当たりの強い園地では、防風ネット等で緩和に努める。